

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光 株式会社		
事業所名	グループホームにのみの家		
所在地	津市新家町1488		
自己評価作成日	令和4年10月24日	評価結果市町提出日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600418-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470600418-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	4年	11月 11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桃園地区の高台にあり、施設前の竹藪の向こうには田園風景が広がっています。隣の光明寺さんは春の桜に始まり、菟、紫陽花、すもも、柿、みかんと季節の移り変わりを目で感じる事が出来ます。お寺から六地藏さんへと続く小路が、にのみの利用者様の絶好の散歩コースです。長いコロナ禍で行事や外出は減っていますが、陽気のいい日にはみんなで散歩に出掛けます。犬の散歩やお墓参りに来ている地域の方が話しかけて下さったり、お花を下さったりと地域の方とも温かい関係が築けていると感じています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から18年を迎え、コロナ禍で外出制限をしている中でこそ、「和顔愛語」の理念を基本とし、利用者一人ひとりの思いや意向を大切に共感できる介護を目指している。「技と心のこもった介護」をモットーに「温かい事業所作り」に取り組んでいる。また職員を育てる取り組みにも前向きで、利用者の介護に少しずつ労力が掛かるようになってきている為、「身体拘束をしない介護」等についての定期(毎月)研修で理解を深めて、笑顔で優しい言葉掛けで事業所が和やかな雰囲気になるように努めている。自分の役割を持つことにより認知症の行動が穏やかになった方がいるなど、関係者・利用者が共に生き生きと生活できるように努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を検討していたが、中々決まらず、現状の和顔愛語と実践理念の利用者本位を念頭に置き実践している。	「和顔愛語」を基本に「技と心のこもった介護」を心に刻み利用者との向き合って安心、満足を提供できるように笑顔での支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は敬老会や運動会などにお誘い頂いていたが、コロナ禍でつながりが少なくなっている。事業所としては徐々につながりが増えており、地域の保育園の方が敷地内を使い避難訓練をしたり、自治会の回覧板も頂いて交流している。	コロナ前から利用者が楽しみにしている老人会の参加交流は中止になっているが、老人の日のプレゼントは頂いた。近隣の方々との日常の交流はコロナ禍で箕臼になっているが、近隣の散歩時等での挨拶の継続はしている。近隣の方から野菜を頂く事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の話を聞いたり、入居の相談も受けている。入居には至らなかったが、運営推進会議等で意見交換し地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より自治会長も交代したが、自治会とは年々密になってきていると思う。施設の周りの環境の整備等、お互い出来る事など忌憚の無い意見交換をしている。防災庫は設置して頂いたが、倉庫に置く物は検討中との事。	コロナ禍で思うような開催は出来ていないが、事業所から近況報告や行事報告をし、意見をもらっている。マイナンバーカードの質問について介護保険課の説明を受けた。「虐待の件について」包括支援センターから話を聞いた。他国籍の職員についても共有できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前より訪問する事は減っているが、立ち寄った際や電話での相談などしている。ケアサービスのみならず、補助金や施設運営の件などで連絡を取ったりしながら協力関係を築き、互いに知識向上に努めている。	市から生活保護者の受け入れ要請や、コロナ関係の相談等で密に連絡を取り合っている。調査当日もコロナウイルス感染拡大に伴う注意事項の連絡が市から入った。月に数回は各種相談ごとで市介護保険課へ施設長が出向いて協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠が無いのは難しいが、帰宅願望があったり外に出るとの訴えがある際は、気分転換に職員と外に出るなどしている。定期的に研修も行っており、理解を深めている。	「身体拘束廃止委員会」を設置し、全職員参加の勉強会を3カ月に1回開催、拘束に対する理解度は高い。言葉による拘束には特に気を付け、気になる言動がある時はその都度話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。各階フロアーへの階段扉の開閉が暗証番号になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の研修で虐待の防止に関する様々な研修を実施しており、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方は今まで見えなかったが、成年後見制度を利用されている方は以前入居してみえた。今後も必要性を感じた時は、それらを活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を読み上げ、納得して頂けるまで説明している。契約後も不明な点があればその都度納得して頂けるよう説明し理解を得ている。今年度は改定等していないが、介護保険報酬の改定の際も説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等は少ないが、要望には出来る限り耳を傾け反映している。現在は看取りまで行っていないが、ご家族様の強い要望により、昨年度は1人看取りを行った。申請していないので加算は取れず。	コロナ禍の中、家族には事業所での様子を毎月「このみ新聞」で知らせたり、携帯電話やリモート面会で意見・提案を聞くようにしている。出された意見はカルテに記入して全職員で共有し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は少ないが、効率よく業務を進められるよう、職員会議や個人面談で意見交換し反映させている。	月1回の職員会議(ユニットごと)や年1回の管理者との個人面談(年末調整時)で意見を出せる機会がある。コロナ禍で外出自粛の中職員のアイデアで秋祭りでの「サザエさん体操」、クリスマス会での変装、節分の太巻き寿司等、施設内行事の工夫や意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備はしっかり整っておらず、今後の課題である。職員個々の努力や実績などは、個人面談の結果報告で行っている。また管理者は代表者と定期的に会議を行っており、その都度話し合っている。特定処遇改善等を用いて資格や職責のある者と区別化などをし、職員のモチベーションのアップにも繋がるよう検討している。現在、特定処遇改善加算はない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は医療的な事にはなるが、喀痰吸引等研修に3名参加して頂き重度化してきている利用者様へのケアを広げている。また内部での研修や資格取得にかかる費用の支援も行っている。評価制度などが整っている訳ではないので、代表者が個々の力の細部まで把握はしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅支援事業所・地域包括・病院などを訪問や電話にて連絡を取ったりし入居者のお願い、また弊社を再度知って頂くと共に、その中で意見交換した事などを取り入れサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、入居時の不安を取り除き信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族さんからよく話を聞きアセスメントし、信頼関係が築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを進めていく中で、入居サービスだけに限定せず本人と家族様の状況を確認しながら適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族との時間よりも、ずっと長い時間を一緒に過ごすので、より良い関係が築けるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入る事で、より良い関係を保てるよう取り組んでいます。月1回のみ新聞で近況を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を知り十分に理解し、馴染みの人や場所を大切に、入居する事で途切れてしまう事のないよう支援に努めている。	コロナ禍で面会自粛が続き外部の方との関わりは鈍りになっている。かかりつけ医の受診での馴染みの継続支援は出来ている。新年の挨拶状を自身で書き馴染みの人との関係継続の支援をしている。また事業所内で気の合う利用者がお互いに寄り添い馴染みの関係が育まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事で孤立する事のないように利用者同士が関わり合い、より良い関係性が築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も必要に応じて経過をフォローし、出来る限り支援している。退所後も連絡して下さり不要になったオムツ等くださる方も居られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の話を傾聴し思いに寄り添うのはもちろん、本人が安心して何でも話せる雰囲気作りを心掛け、なるべく思いを尊重できるような支援に取り組んでいる。	アセスメントへの個々の生活歴の記入を詳細にして、日々の会話や家族の意見から意向を聞き出しカルテに記入し職員間で共有している。敬老会でお好み焼きを自分でひっくり返して美味しかったと言う積極的な発言もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り以前の生活環境を変えないように努めている。入居前よりアセスメントし家族と充分話し合った上で、馴染みの病院や眼科、美容院等今も継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々長い時間を共に過ごす中での気付き、少しの変化も見落とさない目を養えるよう日々努力し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会議で計画作成者を中心にスタッフ全員でモニタリングを行い、家族や本人の希望に添えるよう本人本位の計画作成に努めている。	1階から3階の職員会議(兼サービス担当者会議)は別々に実施。個々にカンファレンス、3カ月ごとにモニタリング、評価をしている。管理者はすべての会議に出席し、主治医・家族の意見、職員の気づき等を勘案し、基本長期目標6ヶ月、短期目標3カ月で見直しを実施。現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの実践の中での気付きや変化を見逃さず記録し、職員間で情報を共有しその後の支援に繋げ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応するため、サービスの多機能化を進めるために体制を整え、知識や技術の習得にも取り組んでいる。現在も喀痰吸引の研修を3名が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し、必要時には活用できる様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、掛かりつけ医、また事業所の委託医との関係を密にし、疑問な点などがあればその都度相談するなど適切な支援を心掛けている。	利用者の希望で事業所の協力医と従来のかかりつけ医を主治医としているが、個々の医療機関と連携を取り、柔軟に対応し適切な医療が受けられるように支援している。歯科往診を受けている利用者も多く口腔内清潔保持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今現在看護職は配置していないが、利用者の高齢化や重度化に伴い訪問介護の導入等を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が対応する事が多く、施設内での状況を詳しく説明し、出来るだけ早期に退院できるように情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが現状終末期に入っている方も居る。かかりつけ医、家族と納得・了解を得られるよう相談しながら進めています。	母体法人・事業所ともに、看取支援はしない方針で指針もないが、現状は家族の強い希望があり、主治医の意見や助言、連携の下、職員の理解により数名の見取り支援が行われている。	今後は、事業所においても家族の切なる希望があれば、終末期支援が欠かせないと考えられる事から、医療機関との連携、職員の理解のうえ、看取り支援をする方針を前向きに検討されることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時には全ての職員が対応可能な体制を作るため、消防署の指導や内部研修でAEDや応急手当など初期訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食や備品の備えも充分にしつつ、災害別のマニュアルに沿って臨機応変に対応できるよう周知徹底に努め、地域の方々へのお願いや消防団への声掛けもしています。	年2回の避難訓練や消防署による実施指導は受けている。防災コーディネーターの有識者からの防災訓練、地域自治会との依頼事項など確認済みである。救助担架体験により災害意識の向上を図った。今後垂直避難を計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が[和顔, 愛語]を念頭に置いて実践し、人格を無視するような言動に注意し対応に誤りのない様務めている。	常日頃からプライバシーを損なわないような言葉掛けや対応について職員間で話し合いを行い、一人ひとりの人格を尊重した声掛けには気を使い優しい言葉使いで接するようにしている。すべての居室にトイレが設置されていて、排泄時のプライバシーは確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で関わる中、自然に本人が思いや希望を話せる雰囲気を作り、聞き取る余裕を持ち、思いを聞いたらできるかぎり実行に移すよう取り組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いを尊重し、一人ひとりのペースに合った支援を心掛け、その人らしい暮らしができるよう、職員の都合で乱す事のないよう常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は定期的に職員が散髪し、髭剃りは毎朝支援している。女性の方はおしゃれな方が多く1日に何度も着替えて来られたり、自由にもっている。散髪は訪問美容師に来てもらう方もあり、本人の意思に任せています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ペースト食の方や刻み食の方と食事形態には個人差があるが、毎日の食事は皆さんの生活の中での一番の楽しみであり、明るく楽しく食事出来る雰囲気を作り心掛けています。	メニューと食材を業者に依頼してユニット毎に職員が調理している。コロナ禍で利用者の手伝いは自粛しているが、誕生日食やおやつ作り(ぜんざいの団子作り等)には出来る事を手伝い、作る喜びが生きがいになっている利用者がある。花見(桜)行事でビュッフェ形式の食事会を事業所全員参加で実施し共に笑顔になれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力での食事が困難で全介助の方も居られるが、医師の指導や歯科医の食事支援により毎食の記録に努め、一人一人に合った適量摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前を習慣として行っている。肺炎リスクの高い方は口腔ティッシュにて毎食後ケアしている。半数以上の方が訪問歯科医に週1で口腔内清掃をしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を理解し記録に留め、工夫した援助が出来るよう心掛けています。また声掛けやトイレ誘導することで、なるべくトイレにて排泄してもらうように支援している。	個々の居室にトイレは設置されているが、自分で排泄行為が出来る利用者は少ない。排泄チェック表により時間を決めた声掛けを行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しなるべく薬剤に頼るのではなく、水分摂取や運動への働きかけを行っている。またおやつ水分にオリゴ糖を加えるなどの工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてはいるが、個々の気分やタイミングに合わせてランダムに入浴してもらっています。入浴が好きな方は入浴回数が断トツに増えるのですが出来る限り本人の希望に添うようにしています。	週3回午後の入浴が基本である。入浴時間は利用者と職員が1対1になり会話が弾み楽しく入浴できている。入浴剤は使っていないが、ゆず湯などで季節を感じてもらう工夫をしている。寒い時期には浴室暖房の設備利用もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休んで頂けるように寝具、照明、室内温度に配慮しています。「眠れない」と訴えられる利用者様には寄り添い、出来る限り話し相手になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬の目的や用法、用量など職員全員が把握し誤薬等ないように努めています。症状に変化がある場合には、医師や薬剤師に相談し指導や助言をもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で大きな行事がなくなっている分、誕生日会等の行事や毎日のレクリエーションを工夫したり、洗濯たたみや床のモップ掛けなどの役割を持っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出の行事が全くなくなっていて、近くに散歩に行く以外は病院受診でしか外出来ていない現状です。本人の希望を把握し気分転換にご近所を散歩したり、家族様との面会の機会を増やしたり、おやつ作りしたりと工夫しています。	コロナ禍で思うような外出は自粛中であるが、日常的に天気が良ければ、事業所周辺の散歩(近隣のお寺)や玄関先の椅子に座り外気浴は出来ている。敷地内花壇で花を収穫する事やごみ捨てに職員と一緒に出かける事が生きがいのになっている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いは、失くしたりするといけなないので全て金庫で預かっています。カフェに出掛けた際の支払いや外出時に寄って来る買い物で支払ってもらうよう支援していますが、今はコロナ禍で外出を控えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は訴えがあれば、自由にしてもらっています。家族さんからかけて下さる方も居られます。コロナ禍で電話される方は増えました。手紙は年末にご家族宛てに年賀状を書いて送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な気分になる事のないよう常に清潔にし、音や光に配慮し空調はその時々々の訴えに応じてこまめに調整しています。季節に合ったカレンダーや壁画をみんなで一緒に作り、季節を感じてもらっています。	コロナ感染症予防対策の為、時間を決めた換気、空気清浄機や加湿器の使用で空調管理は行き届いている。腰板や扉に木をふんだんに使った居間兼食堂は採光もほど良く、落ち着いた雰囲気を出しており、清潔で居心地よく過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれる事はほとんどありませんが、一人一人の居場所は確保できています。気の合う方と過ごせる空間は居心地の良い居場所であるようで、いつもそこに集まり過ごされてる方がほとんどです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらっています。ご自宅で使われていたテレビや使い慣れた家具を持ち込んでおられる方や、孫やひ孫の写真やご主人が作られた焼き物を飾られている方もあり、その人らしい雰囲気が漂っている。	木を基調にした造りで、暖かくて過ごしやすい落ち着いた空間になっている。各個室には、トイレと洗面台が設置されている。まさにプライベートルームである。個々が自宅で使い慣れた調度品を持ち込みその方らしい空間である	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は木の佇まいで段差なく、車いすや歩行器の方もスムーズに行き来でき、間隔の広い手すりを使用される方もあり安心安全で快適に過ごしてもらっています。		